入院診療計画書

流産掻爬を受けられる　　（　　）様へ

2　部　印　刷
1部：患者ファイル
1　部　：　患　者　様　用

病名　　年齢　　生年月日：　　薬　剤　師

症状　　受持看護師　　病棟　　管理栄養士

	入院から手術が始まるまで	手術中	手術終了から退院まで
目標	処置の必要性と内容が理解できる。 前処置後、安静に過ごすことができる。	安心して処置を受けることができる。	ふらつきなく歩くことができる。 退院後の薬の内服内容、注意点が理解できる。
食事	処置が終了するまで、食べたり飲んだりできません。		処置終了後2時間ほど経って、吐き気などがなければ 普通に食べたり飲んだりできます。
安静度	トイレ以外はベッド上で安静にして過ごします。		処置終了後2～3時間はベッド上で安静に過ごします。
排泄	出血が多い場合（生理2日目以上）は、確認のため流さずナースコールでお知らせください。		処置終了後初めてトイレに行く場合には、看護師が付き添いますのでコールでお知らせ下さい。 出血が多い場合（生理1日目以上）は、確認のため流さずにコールでお知らせ下さい。
薬 注射		処置の直前から点滴を開始します。 医師が静脈麻酔を行ないます。	処置後は生理痛のような若干の痛みを感じることがあります。 痛みが強い場合は、痛み止めの薬を使用しますので、がまんせず、看護師にお知らせ下さい。 退院までに、抗生物質、子宮収縮薬の処方があります。
処置	入院後、子宮口を広げるため、スポンジ状にふくらむものを入れる前処置を行います。 （詰所の横の処置室で行います）	処置を安全に行うため、心電図モニターや血圧計などを装着します。 麻酔が十分効いてから処置が始まります。 処置は10分程度で終了します。	処置後は、麻酔が覚めてからベッドで病室へ戻り、2～3時間ほど安静に休みます。 退院前に診察がある場合はあればお知らせします。
説明 指導 その他	入院後、医師が処置について説明します。 子宮の入り口にスポンジ状にふくらむものを入れると下腹部の痛みや、性器出血を伴うことがあります。 子宮の入り口が少しずつ開き、自然にスポンジが抜けたり、子宮内容が出る場合があります。 もしナプキンに何か出たり、トイレで何か出たと感じた時は、確認する必要がありますので、捨てたり、流したりせずに、すぐに看護師にお知らせ下さい。 処置に呼ばれたらナプキンを1～2枚持って詰所の横の処置室においでて下さい。	処置に呼ばれたら、眼鏡・コンタクト・装飾品・ブラジャーは外して詰所の横の処置室においでて下さい。	医師が、次回の外来受診日や内服薬、退院後の生活について説明します。 退院前に、膣内に入れてあるガーゼを必ず抜いて下さい。 （ガーゼは入れない場合もあります） 下腹部の痛みや出血が多い場合は看護師にお知らせ下さい。 歩行時のふらつきなどがなくなれば退院できます。 必ずどなたかに付き添ってもらい退院して下さい。 ご自分での車の運転などは、危険ですのでさけて下さい。

※上記内容は、現時点で考えられるものであり、今後検査等を進めていくにしたがって変わることもありますのでご了承ください
※ご質問等ございましたら気軽にスタッフへ声を掛けてください。

◇総合的な機能評価◇

	☐ 評価対象外	
・日常生活動作	☐ 問題なし	☐ 要経過観察
・認知機能	☐ 問題なし	☐ 要経過観察
・意欲	☐ 問題なし	☐ 要経過観察

※　特別な栄養管理の必要性　☐ 有　☑ 無

主治医　　印又は署名

私は、上記診療行為について、主治医から十分な説明を受けました。

　　年　　月　　日　患者　又は　親権者・親族等サイン　　（続柄　　）